

# くまのじんじゃ 熊野神社

古賀市<sup>むしろうち</sup>筵内 1575 番地

## 祭神

にぎはやひのみこと はやたまのをのみこと いざなみのみこと ことさかのをのみこと うましまちのみこと  
饒速日命・速玉男命・伊邪那美命・事解男命・宇麻志麻知命

## 縁起

ぶんあん 5年(1448)に<sup>さぎしろやま</sup>鷲白山から現在地に遷り、<sup>てんぶん</sup>天文年中(1532～1555)に再建されたと伝えられています。

現在の神殿は、明治25年(1892)に再建され、見事な竜の彫刻も見られます。

めいじいしん 頃までは<sup>にやくいちおうじくう</sup>若一王子宮と称していました。

## 氏子

筵内・久保の<sup>うぶすながみ</sup>産土神でしたが、今は筵内だけとなっています。

## 本地仏

本地仏とは、日本の神の本体は仏(如来や菩薩)ですが、衆生を救うための手段として、仮に神の姿をとって現れるという、「<sup>ほんじすいじゃく</sup>本地垂跡」の思想による仏をいいます。熊野神社の<sup>ほんじぶつ</sup>本地仏は阿弥陀如来で木造阿弥陀如来坐像が今も神殿の裏の<sup>ほんじだう</sup>本地堂に祀られていて<sup>しんぶつしゅうごう</sup>神仏習合を物語っています。町内で本地仏が境内に安置されるのはここだけです。

この本地仏と224段の石段を登りつめた境内のすぐ左の、<sup>けんちょう</sup>建長7年の銘のある阿弥陀如来像板碑は、明治維新の<sup>はいぶつきしゃく</sup>廃仏毀釈のときに一時近くの<sup>けいうんじ</sup>谿雲寺に保存されていました。



▲阿弥陀如来坐像  
(平成10年2月3日市指定文化財)





若一王子宮の額

### 一の鳥居

宝永<sup>ほうえい</sup>8年(1711)に建立され、市内で最も古い年紀の鳥居です。寄進者の代表である安武宗念と嘉市の銘があります。宗念は俗霊寺の檀那<sup>だんな</sup>として名をとどめ、嘉市は当時の庄屋で、宝永8年の筵内村の“掟”<sup>おきて</sup>にその名を残しています。

鳥居の額は「熊野神社」となっていますが、明治維新頃までは「若一王子宮」の額が掲げてありました。

### 阿弥陀如来像板碑と薬師如来像板碑

玄武岩の自然石に阿弥陀如来像が筋彫りされた板碑(鎌倉時代、建長7年(1255)の銘あり)と、ほたるが丘の薬師如来像が筋彫りされた板碑があります。どちらも昭和33年(1958)10月福岡県文化財の指定を受けています。

昔筵内に疫病が大流行し、その疫病を封じるために造られたと伝えられています。

### 絵馬

熊野神社には黒馬伝説で有名な繫馬図(明和3年(1766))、田植から稲刈りまでを描いた寛政5年(1793)の農耕四季図(福岡県に53枚しかない絵馬の一つで貴重なもの)など多くの絵馬があります。

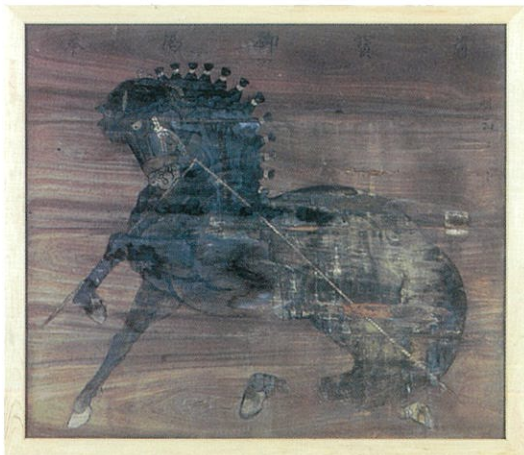


▲阿弥陀如来像板碑



▲薬師寺如来像板碑

▶繫馬図



▶農耕四季図

